

対象年度		令和 4年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		小学校施設整備事業						予算事業名		小学校施設整備事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				10	02	03	20	経常経費							
総合計画体系		未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう						事業の区分		主要事業					
		地域への愛着と誇り、「生きる力」を育む教育環境づくり													
		安心して学べる学校づくりの推進						担当課係等		学校教育課					
						施設係									
事業期間		継続 (令和 4年度～ 年度)													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
児童が安全で快適に学ぶことができる教育環境の整備を図る。 教職員が児童を指導するうえで、良好な環境を整備する。															
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
○改修工事 ・体育館改修（屋根及び床改修、LED化等） ・外トイレ改修（老朽化による建物及び便器を洋便器化へ改修） ・ボイラー室改修（機器を撤去し、物置・保管庫として活用） ・防火及び消防設備改修（耐用年数を考慮し順次改修） ・フェンス改修（経年劣化部を順次改修） ・遊具設置改修（耐用年数を考慮し順次改修） ・校内電話改修								児童及び教職員							
								【事業をとりまく環境の変化】 学校からの要望件数が校舎の老朽化とともに年々増加し、教育環境の改善が求められている。 老朽化の進行が進んでおり、部分的な改修ではなく、全体的な大規模改造を実施しなければ改善されない状態となっている。							
【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】							
体育館改修（結城小、山川小） ボイラー室改修（城西小） 消防設備改修（結城小） フェンス改修（結城小） 遊具設置改修 校内電話改修（絹川小）				体育館改修（絹川小、江川南小） 外トイレ改修（結城小） ボイラー室改修（上山川小） 消防設備改修 フェンス改修（結城西小、城西小） 遊具設置改修				体育館改修（結城西小、城西小） 外トイレ改修（結城西小、城西小） 消防設備改修 フェンス改修（山川小、江川北小） 遊具設置改修							
■事業費															
				R02年度		R03年度									
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	16,618	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	32,600	40,200								
	そ		の		他	0	0								
	一		般	財	源	15,409	29,617								
歳入計（千円）				64,627		69,817									
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）									
	12	委託料		3,608		0									
	14	工事請負費		61,019		69,817									
歳出計（千円）（A）				64,627		69,817									
伸び率（％）						8.03									
考	プールに関してはコロナウイルスの影響もあり2年間実施していない。機器の老朽化や水漏れも発生している状態ではあるが、使用頻度が低いため費用対効果が低い。														

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	トイレ改修	校	目標	3.00	0.00	0.00
	和式便器を洋便器に改修		実績	3.00	0.00	0.00
	体育館改修	校	目標	0.00	2.00	2.00
	経年劣化による屋根、床等の改修及びLED照明器具への改修		実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	教育環境整備のため必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手法が一般的である。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	施設の老朽化が進むにつれ、一件の工事規模が大きくなる傾向にあり、工事に係る準備や設計、学校側との連絡調整に人員や時間を要する。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	改善の要求及び必要のある施設について、対応ができています。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	緊急性・重要性の高い案件を優先的に整備し、一定の効果は得られている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	突発的な改修や事業費の増加により、計画の見直しが必要になる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
概ね計画通りに進められているが、学校施設の老朽化により、事業量及び事業費が増加してきている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
学校施設個別施設計画に基づき、計画の見直しをするとともに事業費の平準化を図っていく。また、今後検討される学校の適正規模、適正配置の状況を総合的に判断し随時計画に反映させていく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 学校施設個別施設計画に基づき、国庫補助金を活用した改修工事を実施していく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。	